

青山大人(あおやまやまと) 県議会報告かわら版53号



平成 25 年 10 月 30 日発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2

電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012 メール info@aoyamayamato.net

★フェイスブックでは、日常の活動やプライベートについて公開しております。また、メールにて、ファックス番号を送って頂ければ、毎月一回確実にお手元へ議会報告が届きます。

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～

1979年土浦市生まれ。現在34歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選(当時、全国最年少の都道府県議会議員)。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。2008年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画ロケを地元へ誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。東日本大震災時は翌日から市内の水道復旧状況等をいち早くブログで情報発信し、一日での閲覧者が最大35000件を記録。また、福島県や宮城県への被災地支援活動が新聞等で大きく掲載される。現在、県議会農林水産委員会委員、予算特別委員会委員、議会運営委員会委員、土浦市消防団第27分団員(土浦市操法大会へ4度出場)。

●茨城県の「魅力度」とは？

約1カ月行われた県議会は10月28日に閉会し、12月2日から再び開会されることになりました。先の議会において、青山は常任委員会のほか、予算特別委員会(国会中継で見られるものと同じような感じです)にて質疑を致しました。

といっても、予算特別委員会の前に本会議での代表・一般質問で計16人の議員が登壇し、県政の主要課題のほとんどの質疑が展開されたので、予算特別委員会において青山は、敢えて地域ブランド調査2013の調査結果で茨城県の魅力度が再び全国最下位になった要因として、主要5項目の中で際立って順位を落とした「情報接触度」の向上への取り組みに焦点をあてて質問致しました。

そもそも情報に触れるかどうかというのは、魅力的かどうか評価される以前の話でもあり、情報接触度を地道に上げていくこと、つまり茨城県の情報に触れる機会を増やしていくことが、結果的に魅力度向上に繋がるとの思いからです。もちろん、情報接触度向上への取り組みといってもあくまでも県民の皆様にとって便益となり、かつあまり経費がかからない提案を他県の先進事例の分析も交えながら質問をしていきます。

具体的には、①行政のオープンデータ化の推進
②県民の皆様の声聞くために Facebook の活用
③県内の無線 LAN の普及整備促進、その他④日本一のサイクリングロード整備に向けて、「つくばりんりんロード」と現在整備中の霞ヶ浦北岸に加え南岸にもコースを整備し、総延長176kmのコース整備の提案⑤バス利用促進への取り組みです。

②の提案に対して、県知事は、Facebook を活用した政策作りについて、今年度の京都府の試験実施の結果を参考にしながら、例えば茨城県のイメージアップのような多くの意見をいただきやすいテーマ設定するなど方法を進めた上で茨城県でも試験実施に向けて検討していきたいとのこと。(裏面は読売新聞に掲載されたこの質問の記事です)

③については、観光施設等での導入については外国人を含めた観光客向けにとどまらず、災害時における利用も想定されるので、まずは県の関係部署による検討会を設けて協議をし、どのような場所にどの程度の数を設置すべきかといった整備の規模やどのような使い方が想定されるのか、また整備に要する費用等について整理をしていくとのこと。

⑤バス利用促進への取り組みについては、ノーマイカーでの取り組み日数の拡大について可能な限り日数を増やしていただけるよう各県内の参加事業者働きかけるとのことです。

●あの震災から2年半以上が経過

先日、東日本大震災に創設された中小企業等グループ施設等災害復旧事業を活用した事業の一つで、子どもたちに仕事を体験してもらおうイベント「キッズパーク」を見てきました。たくさんのお子さんが参加され、子どもたちの生き生きとした真剣な眼差しがとても印象的でした。

大震災後、市内の多くの商工業者の皆さまが被災されました。その後、国の方で中小企業等グループ施設等災害復旧事業というのが創設され、土浦商工会議所事務局の皆さまが一丸となって、この復旧事業が土浦市でも採択されるよう昼夜問わず奔走された姿が思い起こされ、とても感慨深かったです。